

## シメオンの預言

ルカによる福音 2:22-40

モーセの律法に定められた彼らの清めの期間が過ぎたとき、両親はイエスを主に  
献げるため、エルサレムに連れて行った。

それは主の律法に、「初めて生まれる男子は皆、主のために聖別される」と書いて  
あるからである。

また、主の律法に言われているとおりに、山鳩一つがいか、家鳩の雛二羽を  
いけにえとして献げるためであった。

そのとき、エルサレムにシメオンという人がいた。この人は正しい人で信仰が  
あつく、イスラエルの慰められるのを待ち望み、聖霊が彼にとどまっていた。そ  
して、主が遣わすメシアに会うまでは決して死なない、とのお告げを聖霊から受  
けていた。シメオンが“霊”に導かれて神殿の境内に入って来たとき、両親は、幼  
子のために律法の規定どおりにいけにえを献げようとして、イエスを連れて来た。  
シメオンは幼子を腕にき神をたたえて言った。

「主よ、今こそあなたは、お言葉どおり  
この僕を安らかに去らせてくださいます。  
わたしはこの目で  
あなたの救いを見たからです。  
これは万民のために  
整えてくださった救いで、  
異邦人を照らす啓示の光、  
あなたの民イスラエルの誉れです。」

父と母は、幼子についてこのように言われたことに驚いていた。シメオンは彼ら  
を祝福し、母親のマリアに言った。「御覧なさい。この子は、イスラエルの多く  
の人を倒したり立ち上がらせたりするためにと定められ、また、反対を受けるし

るしとして定められています。あなた自身も剣で心を刺し貫かれます。多くの人の心にある思いがあらわにされるためです。」

また、アシェル族のファヌエルの娘で、アンナという女預言者がいた。非常に年をとって、若いとき嫁いでから七年間夫と共に暮らしたが、夫に死に別れ、八十四歳になっていた。彼女は神殿を離れず、断食したり祈ったりして、夜も昼も神に仕えていたが、そのとき、近づいてきて神を賛美し、エルサレムの救いを待ち望んでいる人々皆に幼子のことを話した。

親子は主の律法で定められたことをみな終えたので、自分たちの町であるガリラヤのナザレに帰った。幼子はたくましく育ち、知恵に満ち、神の恵みに包まれていた。

## 説教

律法に従ってイエスの両親はエルサレムに上京し宮参りをおこないます。きょうの福音はそのときにおきた出来事です。聖家族とシメオンとアンナ（男の預言者と女の預言者）が登場します。

シメオン、アンナについて福音が伝えることは少なく、登場もこれきりなのですが彼、彼女とはどんな人だったのでしょうか。

**主が遣わすメシアに会うまでは決して死なない、とのお告げを聖霊から受けていたルカ**  
2:26

「シメオンのお告げ」はエルサレムではちょっとした話題になっていたかもしれませんが。福音ではアンナの年（84歳）にはふれていますがシメオンの年齢については沈黙しています。シメオンがもし若者だったらメシア待望の人たちにとっては盛り上がりません。だって、長生きしてふつうですから。人々はメシアを待望していますからメシオンが若かったらがっかりするでしょう。たぶんシメオンはとて年をとっていたようにおもいます。ところで、お告げをうけて、死ぬに死ねない立場になったシメオンは平素どんな暮らしをしていたのでしょうか。彼は神殿に宮参りにくる子どもを毎日見張ってメシアはどの子だと探していたのでしょうか。福音ではシメオンが神殿に入ったいきさつはこう記されています。

**シメオンが“霊”に導かれて神殿の境内に入って来た** ルカ2：27a

シメオンは積極的にメシアを尋ねて行動していたわけではなく、どうも神にゆだねる作戦だったようです。

さて、アンナはわずか7年の結婚生活で夫と死別（たぶん22.23歳ぐらい）その後どのような暮らしをしていたのかは不明ですが、84歳となって神殿で暮らしでいるようです。

**彼女は神殿を離れず、断食したり祈ったりして、夜も昼も神に仕えていた** ルカ2：37b

神殿暮らしとはいっても当時は女性は祭司になれませんので、からだの動く範囲で雑用係・下働きのようなことをしていたのかもしれませんが。もちろん彼女もシメオンのうわさは耳にしていたでしょう。彼女はシメオンとイエス両親のやりとりを、たまたま目撃してエルサレムに言い広めたと福音から読み取れます。ひとことで言ってしまうと、シメオンはメシアに出会う人、アンナはその証人となり人々に伝える人といえます。

たとえ生後40日の赤ちゃんであっても救い主メシア、キリストに出会ったことは大いなる喜びです。それぞれの人にそれぞれのキリストとの出会いがあるのだと改めて思い、キリストと出会うために人はそれぞれに自分の人生を生きていくのだなあとシメオン・アンナの人生をとおして感じました。今年、キリストに出会えなかった人が来年は出会うことができますように。また、キリストを見失ってしまった人は来年はキリストを確かなものとすることができますように。

-----